

平成 21 年度
福岡都市圏における
留学生実態調査
要約版

平成 22 年 3 月

(財)福岡国際交流協会

調査の目的

本調査は、福岡都市圏に居住する外国人留学生の生活状況を把握することにより、当協会及び福岡市が外国人留学生に対する支援事業の改善・充実等行政施策を展開していく基礎資料を得るために実施した。

調査実施

- (1) 調査主体：(財)福岡国際交流協会
- (2) 集計：(株)サーベイリサーチセンター
- (3) 分析：九州大学留学生センター准教授 高松 里

調査期間

平成 22 年 1 月初旬～2 月下旬

調査方法

- (1) 調査対象：福岡都市圏の各大学に在籍する外国人留学生在籍者 3,807 名
- (2) 配布と回収：各大学の留学生課等担当窓口を通じて配布し、後日郵送にて回収。
- (3) 回答者数：663 人

調査項目

調査の概要

日本留学に至る個人的背景と将来計画

日常生活の諸問題

経済的問題

住居について

福岡地域における留学生の交遊と交流

留学生への情報提供

まとめにあたって

調査の概要

(1) 留学生数

福岡県の大学に在籍する留学生の数は6,015人(2009年5月1日現在)である。

福岡都市圏内の大学に在籍する留学生数も着実に増加しており、全体数として平成元年に比べて約6.4倍、同11年に比べて約2.1倍となっている。

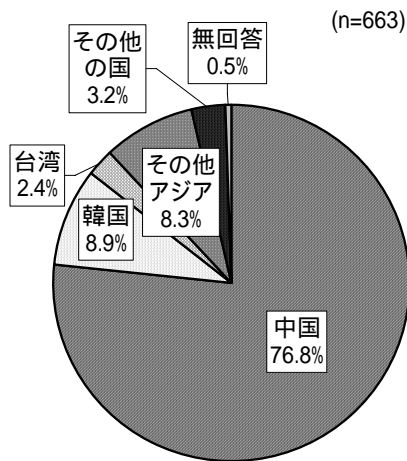
(2) 回答者の属性(問1、3、4、5)

回答者の出身国・地域は、「中国」(76.8%)が7割以上を占め、次いで「韓国」(8.9%)、「台湾」(2.4%)となり、この3カ国で88.1%となる。

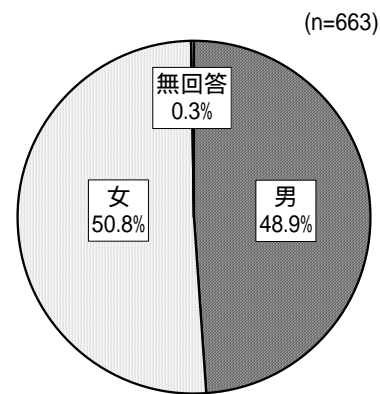
性別を見ると、「男性」(48.9%)、「女性」(50.8%)であり、年齢は、「21～25歳」(46.3%)と「26～30歳」(33.8%)を合わせると、回答者の8割が21～30歳となる。

日本での同居者の有無については、「いる」(38.9%)・「いない」(58.8%)であり、一人暮らしが6割近くになる。

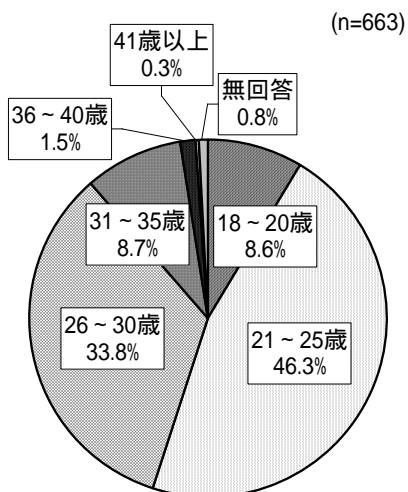
【出身国・地域】



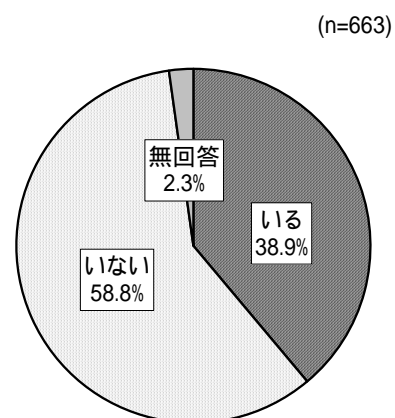
【性別】



【年齢】



【同居者の有無】

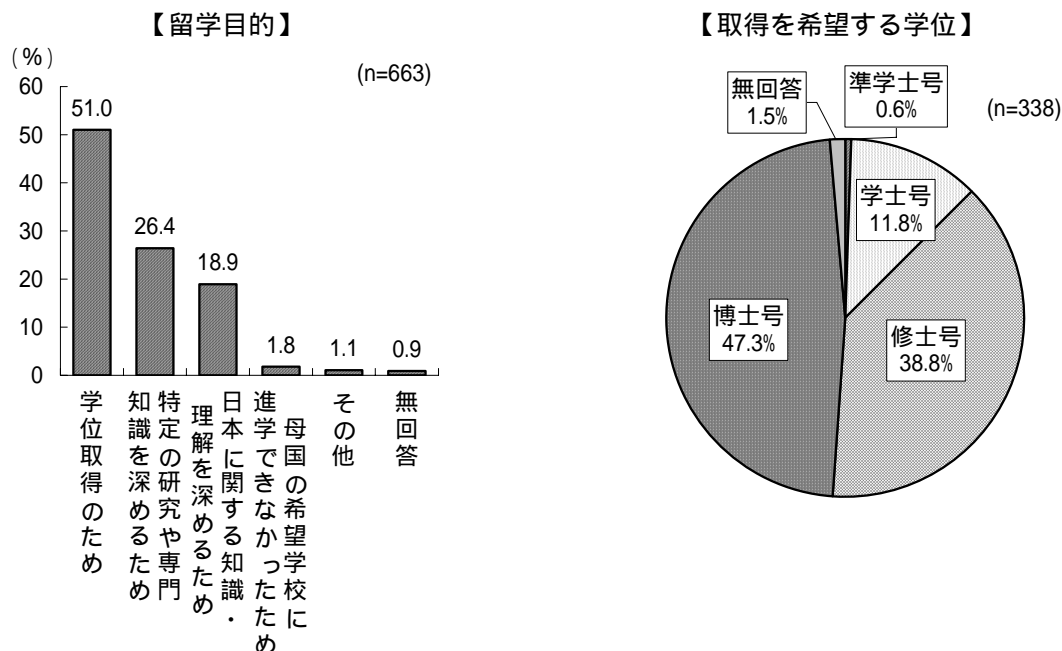


日本留学に至る個人的背景と将来計画

(1) 留学目的 (問9)

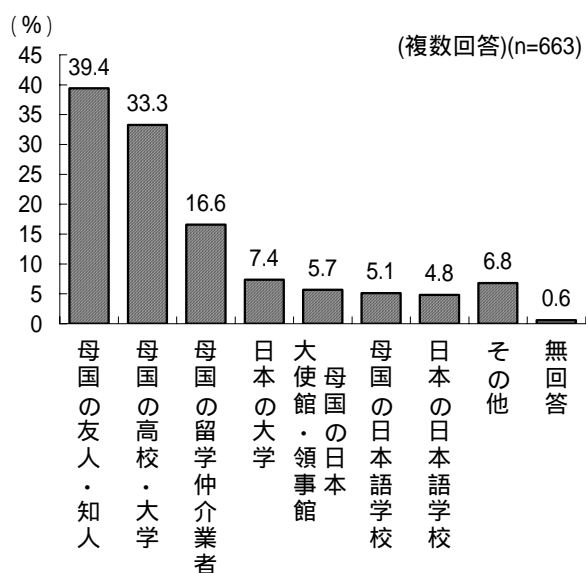
留学目的は、「学位取得のため」(51.0%)が最も多く、次いで「特定の研究や専門知識を深めるため」(26.4%)、「日本に関する知識・理解を深めるため」(18.9%)となっている。

取得を希望する学位は、「博士号」(47.3%)が最も多く、「修士号」(38.8%)、「学士号」(11.8%)、「準学士号」(0.6%)の順となっている。



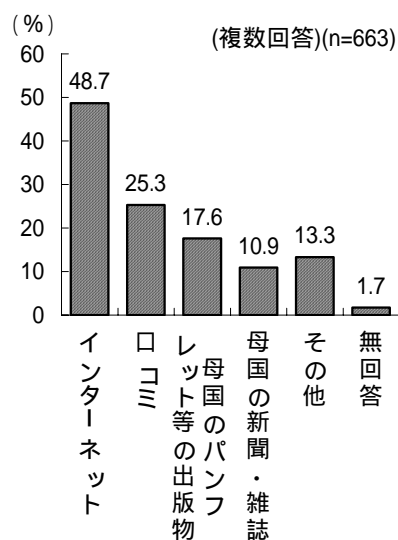
(2) 留学情報の入手先 (問10)

留学情報の入手先としては、「母国の友人・知人」(39.4%)、「母国の高校・大学」(33.3%)、「母国の留学仲介業者」(16.6%)と続く。



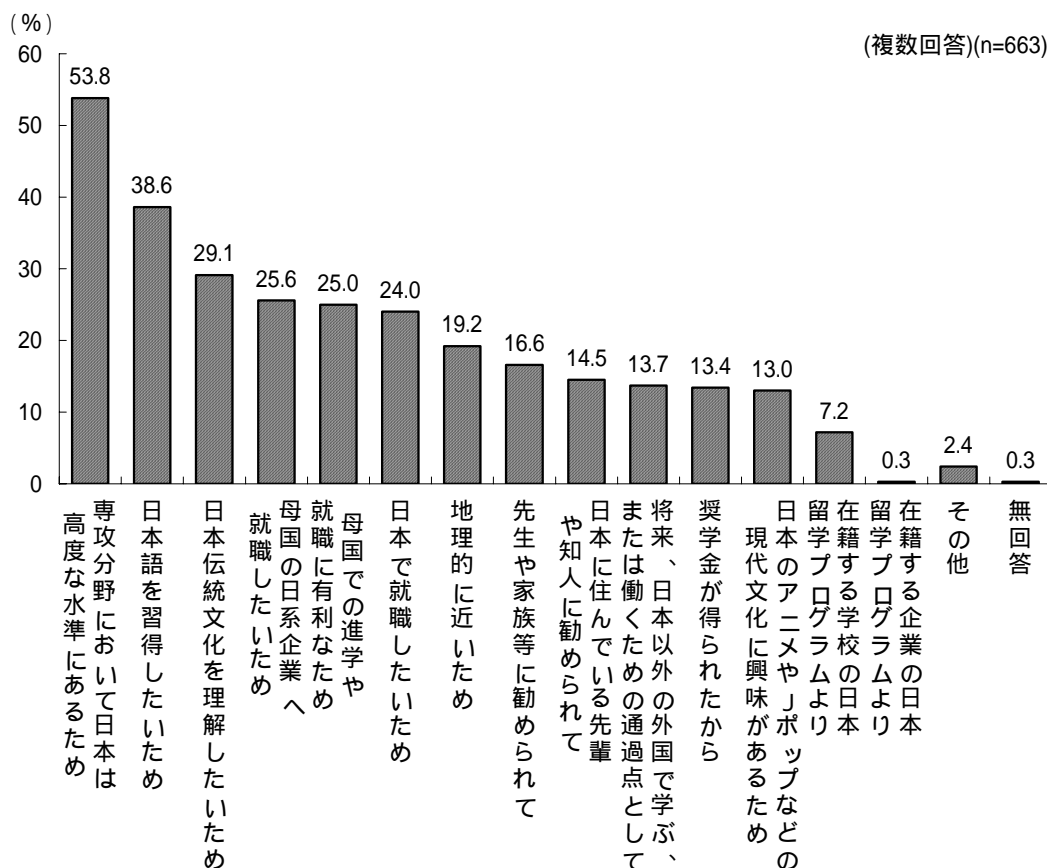
(3) 留学情報の入手方法 (問11)

留学情報の入手方法は、「インターネット」(48.7%)が最も多く、「口コミ」(25.3%)、「母国のパンフレット等の出版物」(17.6%)、「母国の新聞・雑誌」(10.9%)と続く。



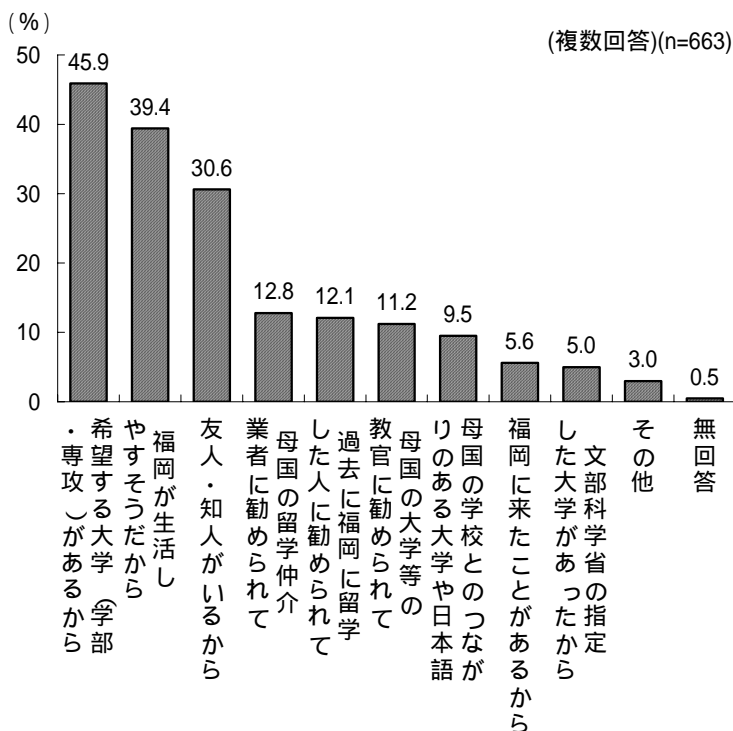
(4) 日本を選んだ理由 (問12)

留学先に日本を選んだ理由は、「専攻分野において日本は高度な水準にあるため」(53.8%)が最も多く、「日本語を習得したいため」(38.6%)、「日本伝統文化を理解したいため」(29.1%)、「母国の日系企業へ就職したいため」(25.6%)、「母国での進学や就職に有利なため」(25.0%)、「日本で就職したいため」(24.0%)と続く。



(5) 福岡を選んだ理由(問13)

福岡を留学先に選んだ理由としては、「希望する大学(学部・専攻)があるから」(45.9%)が最も多く、「福岡が生活しやすそうだから」(39.4%)「友人・知人がいるから」(30.6%)と続く。

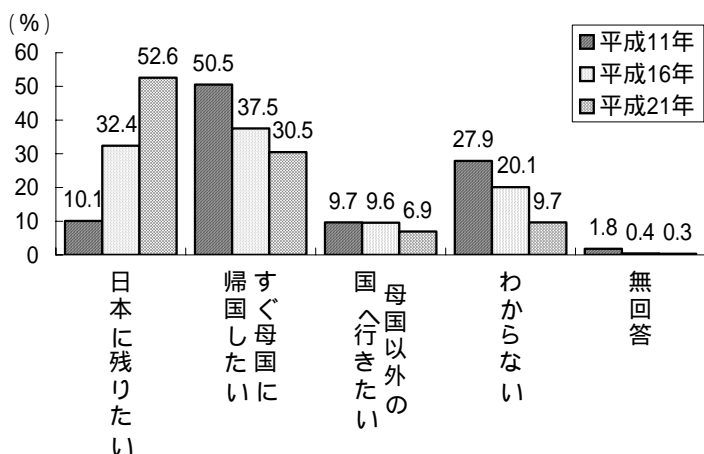


(6) 卒業後の計画(問15)

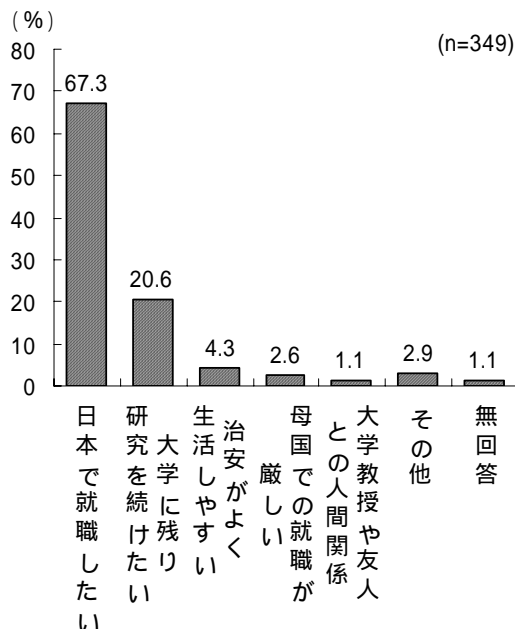
卒業後の計画については「日本に残りたい」(52.6%)が過半数を超え最も多く、前回調査と比較すると、20.2ポイント増加している。次いで「すぐ母国に帰国したい」が30.5%で、これは逆に前回調査と比較して7.0ポイント減少している。

「日本に残りたい理由」についてさらに尋ねてみると、「日本で就職したい」(67.3%)が最も多く、「大学に残り研究を続けたい」(20.6%)も比較的多い。

【卒業後の計画】

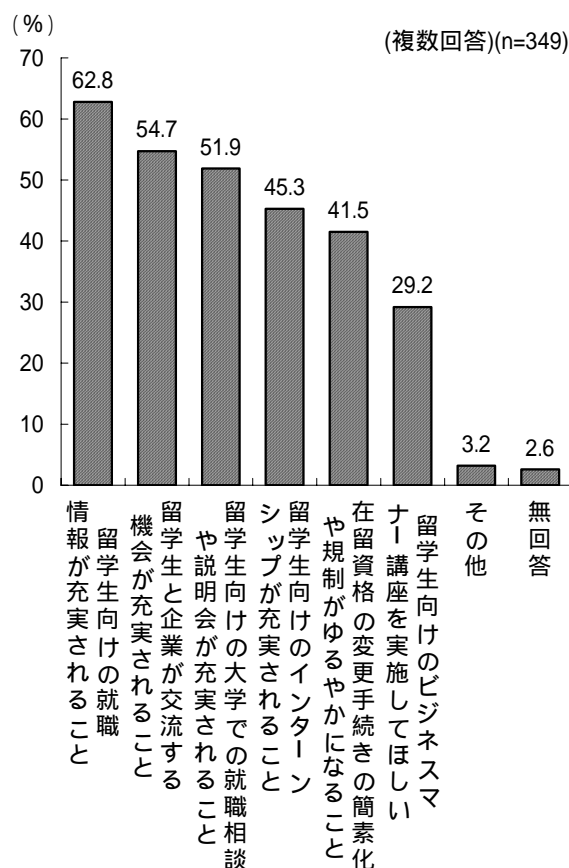


【日本に残りたい理由】



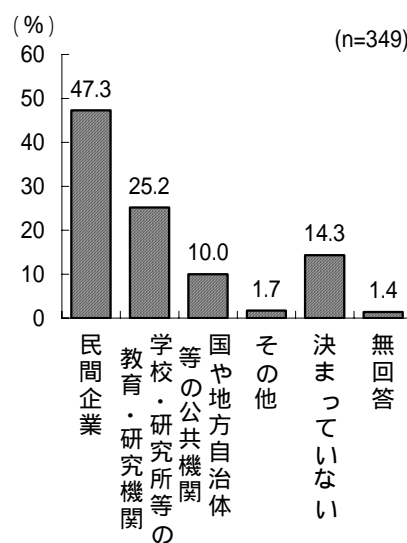
(7) 就職活動での希望 (問 1 6)

就職活動での希望を見ると、「留学生向けの就職情報が充実されること」(62.8%)、「留学生と企業が交流する機会が充実されること」(54.7%)、「留学生向けの大学での就職相談や説明会が充実されること」(51.9%)、「留学生向けのインターンシップが充実されること」(45.3%)など、各項目の得点が高い。



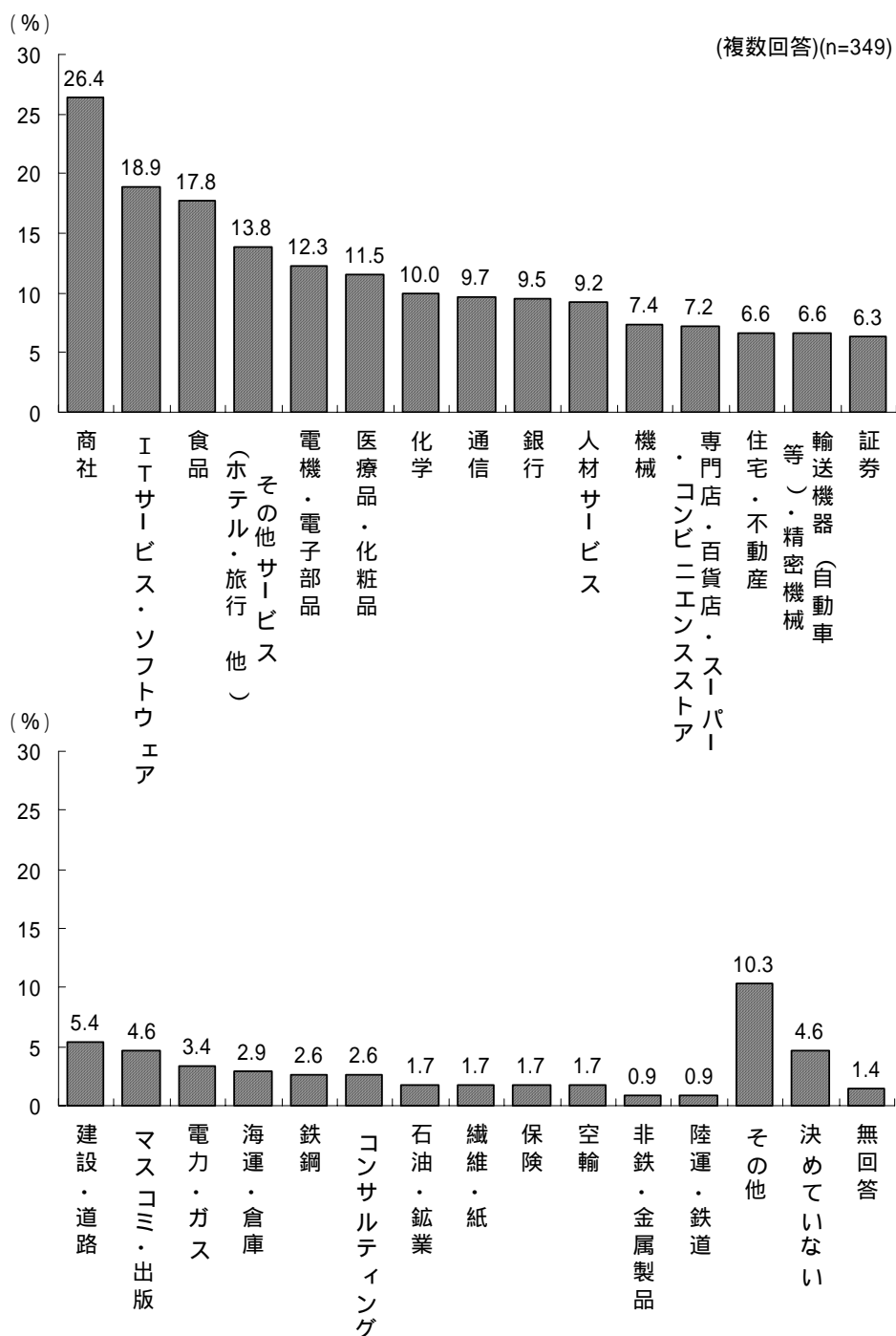
(8) 希望就職先 (問 1 7)

卒業後日本に残りたいと答えた留学生の希望就職先については、「民間企業」(47.3%)、「学校・研究所等の教育・研究機関」(25.2%)、「国や地方自治体等の公共機関」(10.0%)となっている。また、「決まっていない」留学生も14.3%いる。



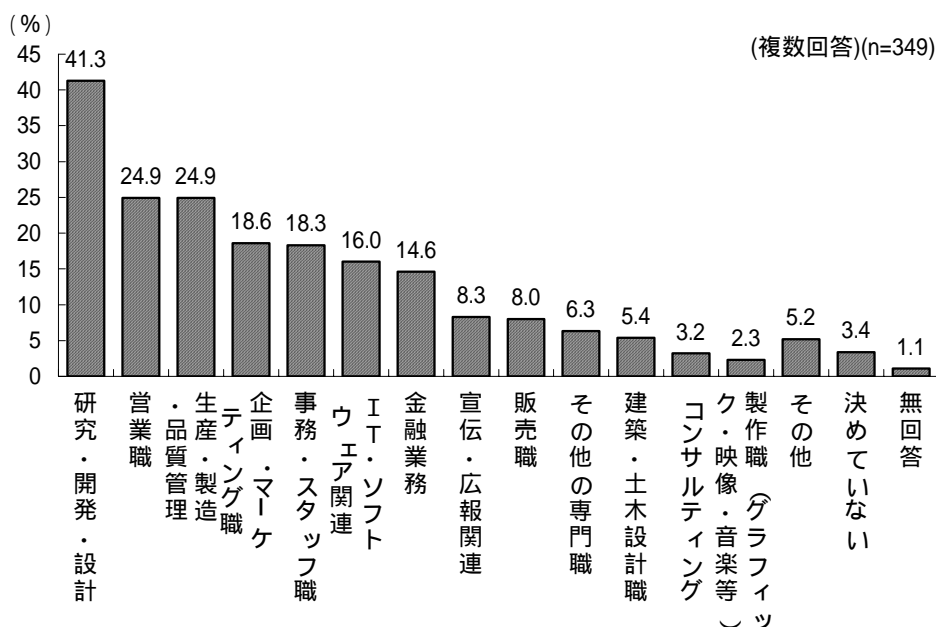
(9) 希望業種 (問18)

留学生の日本での就職希望業種は多い順に、「商社」(26.4%)、「ITサービス・ソフトウェア」(18.9%)、「食品」(17.8%)、「その他サービス(ホテル・旅行 他)」(13.8%)、「電機・電子部品」(12.3%)、「医療品・化粧品」(11.5%)、「化学」(10.0%)、「通信」(9.7%)、「銀行」(9.5%)、「人材サービス」(9.2%)、「機械」(7.4%)、「専門店・百貨店・スーパー・コンビニエンスストア」(7.2%)、「住宅・不動産」(6.6%)、「輸送機器(自動車等)・精密機械」(6.6%)、「証券」(6.3%)と続く。



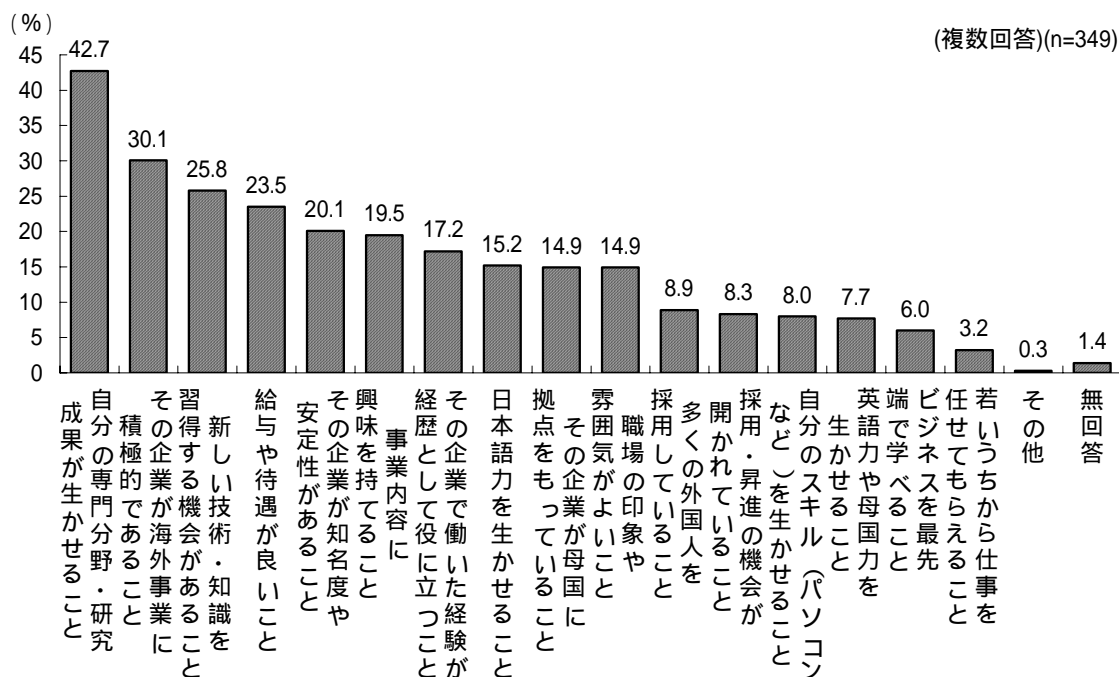
(1 0) 希望職種 (問 1 9)

希望職種は、「研究・開発・設計」(41.3%)が最も多く、「営業職」(24.9%)「生産・製造・品質管理」(24.9%)「企画・マーケティング職」(18.6%)「事務・スタッフ職」(18.3%)「IT・ソフトウェア関連」(16.0%)「金融業務」(14.6%)と続く。



(1 1) 就職先決定の際に重視すること (問 2 0)

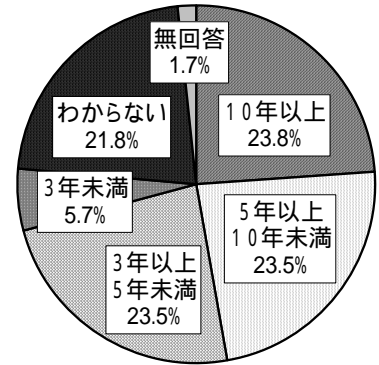
就職先決定の際に重視することは、「自分の専門分野・研究成果が活かせること」(42.7%)が最も多く、「その企業が海外事業に積極的であること」(30.1%)「新しい技術・知識を習得する機会があること」(25.8%)「給与や待遇が良いこと」(23.5%)「その企業が知名度や安定性があること」(20.1%)などが続く。



(12) 就職時の希望勤務年数 (問21)

(n=349)

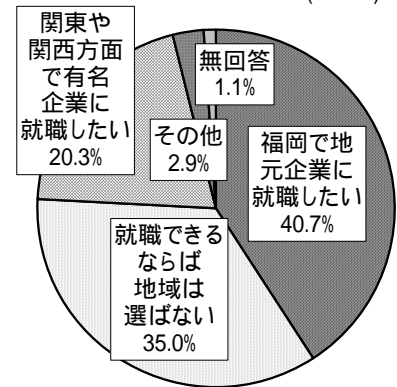
日本で就職した場合の希望勤務年数は、「10年以上」(23.8%)、「5年以上10年未満」(23.5%)、「3年以上5年未満」(23.5%)がほぼ同数で、「3年未満」は5.7%、「わからない」は21.8%いる。



(13) 就職先の希望地域 (問22)

(n=349)

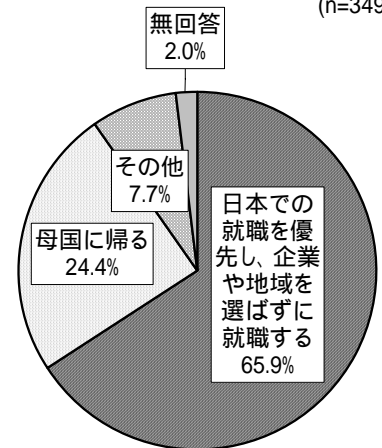
就職先の希望地域は、「福岡で地元企業に就職したい」(40.7%)が最も多く、「就職できるならば地域は選ばない」(35.0%)、「関東や関西方面で有名企業に就職したい」(20.3%)の順となっている。



(14) 希望企業に就職できなかった場合 (問23)

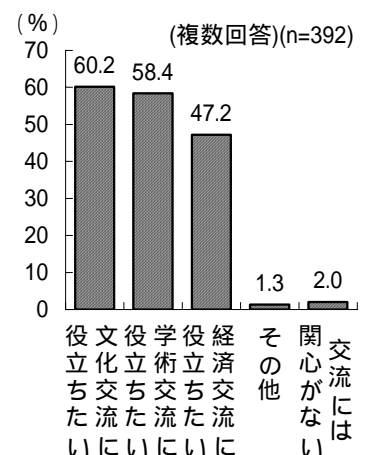
(n=349)

希望企業に就職できなかった場合は、「日本での就職を優先し、企業や地域を選ばずに就職する」(65.9%)が最も多く、「母国に帰る」(24.4%)、「その他」(7.7%)となっている。



(15) 卒業後の福岡との交流 (問26)

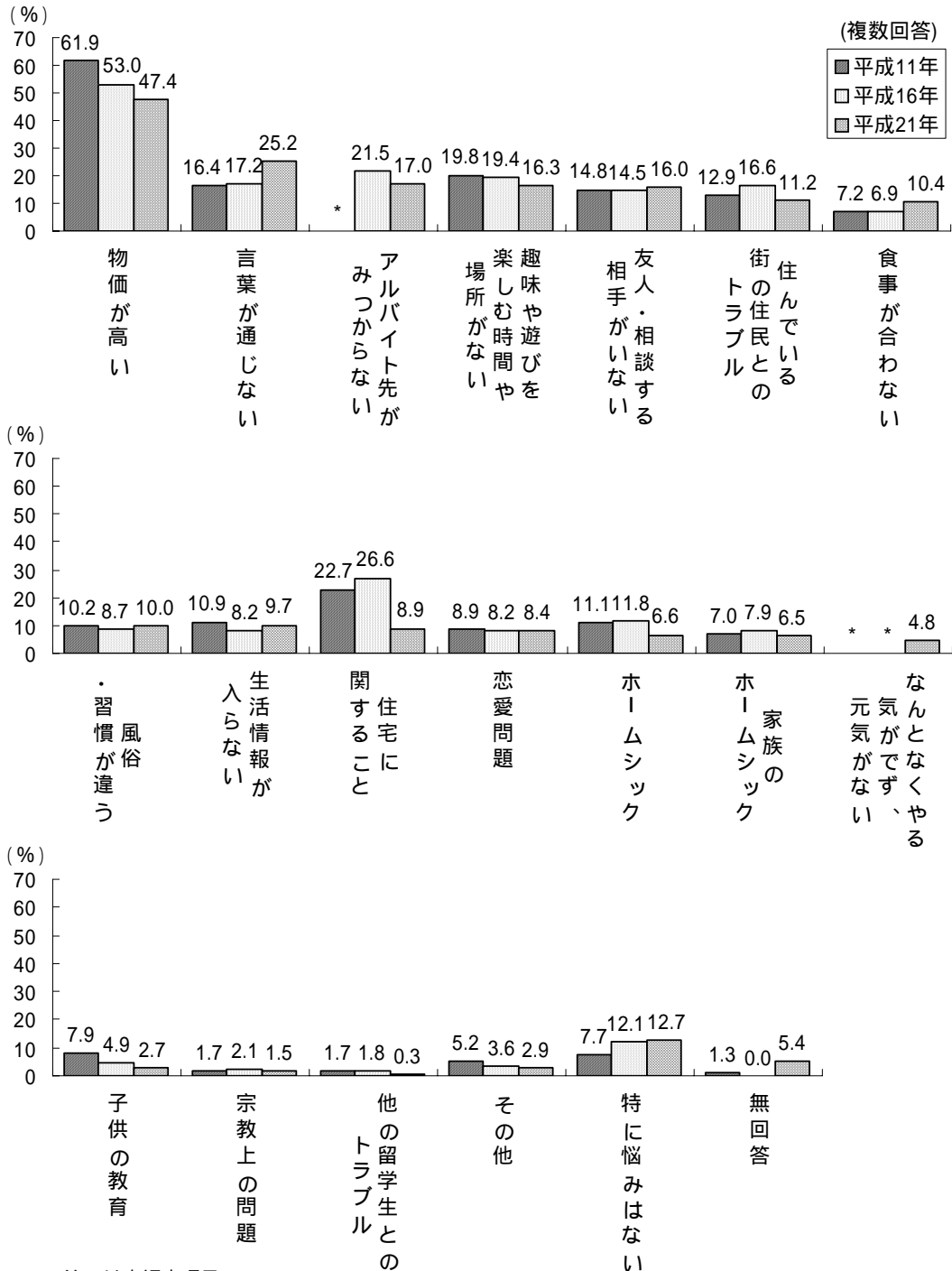
卒業後の福岡との交流については、「文化交流に役立ちたい」(60.2%)、「学術交流に役立ちたい」(58.4%)、「経済交流に役立ちたい」(47.2%)と高い数字を示している。「交流には関心がない」と答えたのは、わずか2.0%であった。



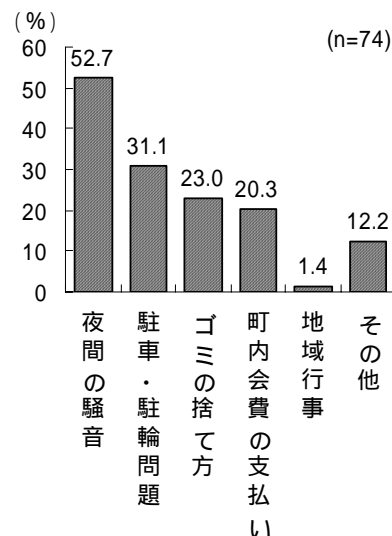
日常生活の諸問題

(1) 日常生活の悩み(問27)

日常生活の悩みの中で最も多いのは「物価が高い」(47.4%)であり、次いで「言葉が通じない」(25.2%)、「アルバイト先が見つからない」(17.0%)、「趣味や遊びを楽しむ時間や場所がない」(16.3%)、「友人・相談する相手がいない」(16.0%)、「住んでいる街の住民とのトラブル」(11.2%)、「食事が合わない」(10.4%)と続く。「特に悩みはない」と答えたのは、12.7%であった。



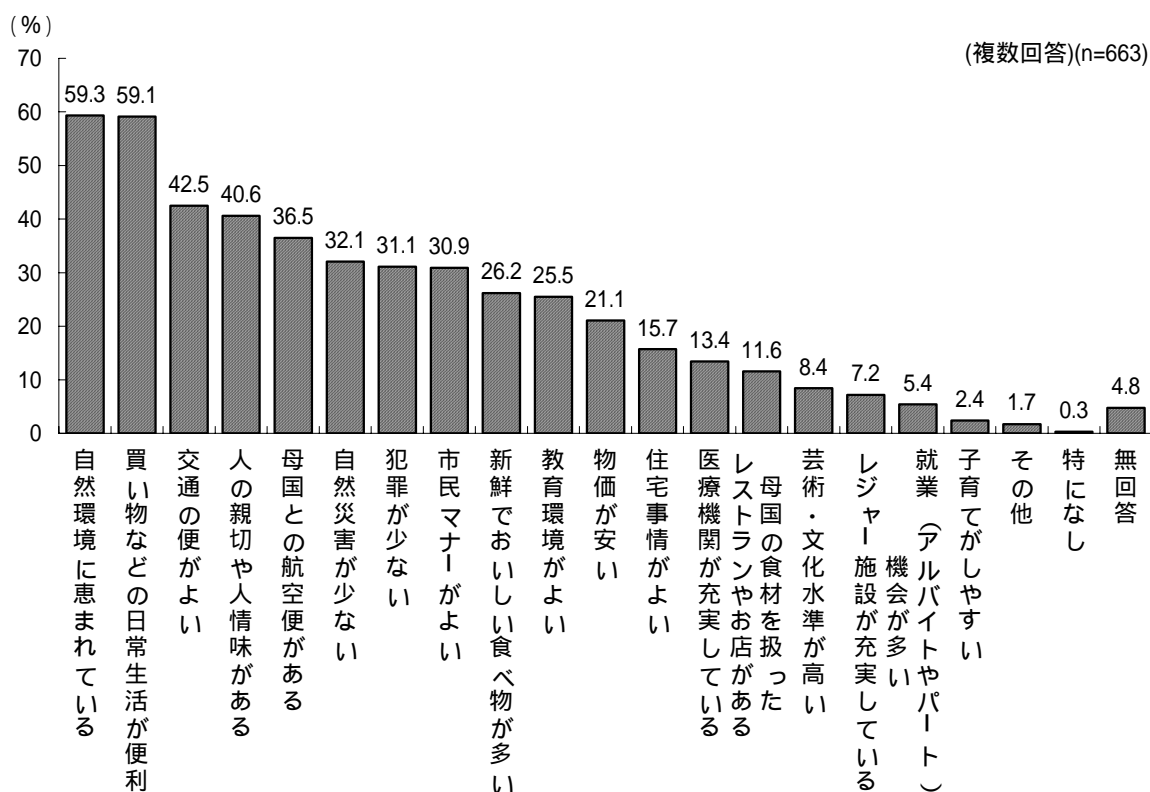
「住んでいる街の住民とのトラブル」(11.2%)は、前回調査から5.4ポイント減っている。その中身を見てみると、「夜間の騒音」(52.7%)が最も高く、「駐車・駐輪問題」(31.1%)、「ゴミの捨て方」(23.0%)、「町内会費の支払い」(20.3%)と続く。「地域行事」は1.4%と低い。



(2) 福岡都市圏で生活して良かった点 (問28)

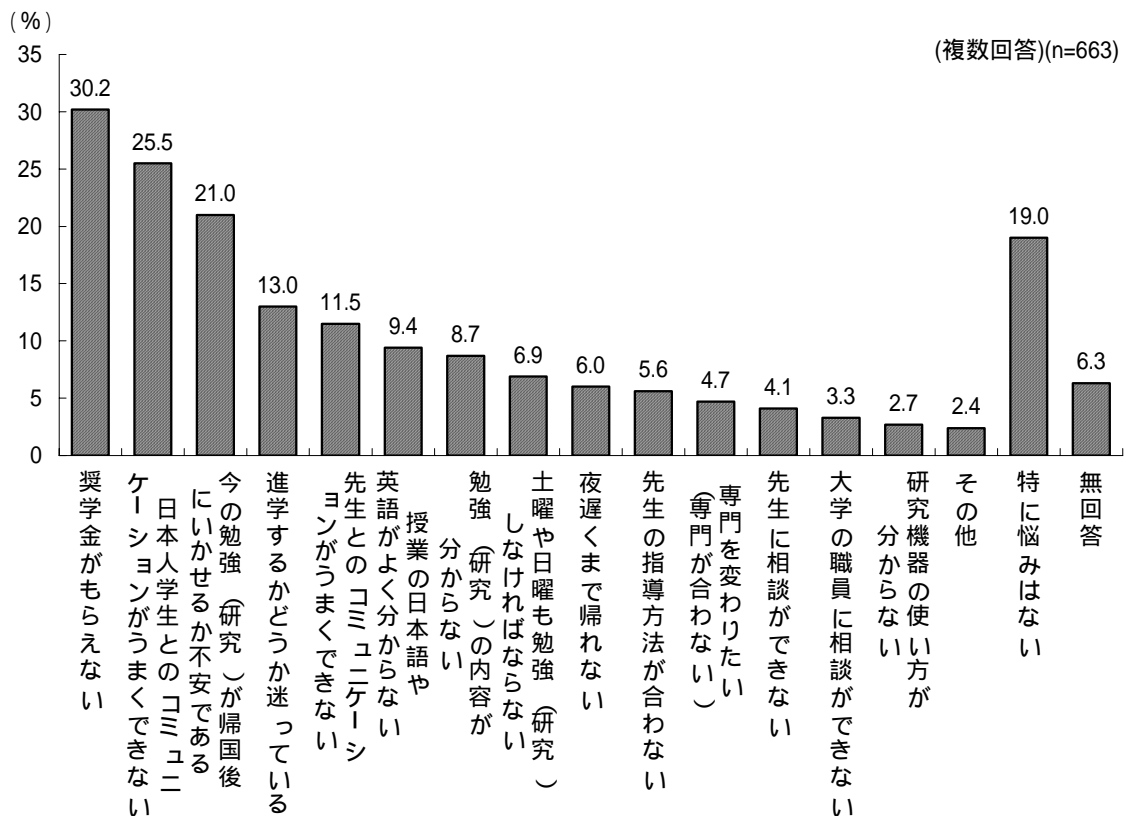
福岡都市圏で生活して良かった点としては、「自然環境に恵まれている」(59.3%)と「買い物などの日常生活が便利」(59.1%)が高く、「交通の便がよい」(42.5%)、「人の親切や人情味がある」(40.6%)、「母国との航空便がある」(36.5%)、「自然災害が少ない」(32.1%)、「犯罪が少ない」(31.1%)、「市民マナーがよい」(30.9%)と続く。おおまかに分けると、「自然環境の良さ」「便利さ」「親切」「安全」などが評価されている。

逆に「子育てがしやすい」(2.4%)、「就業(アルバイトやパート)機会が多い」(5.4%)、「レジャー施設が充実している」(7.2%)、「芸術・文化水準が高い」(8.4%)などの評価は低い。



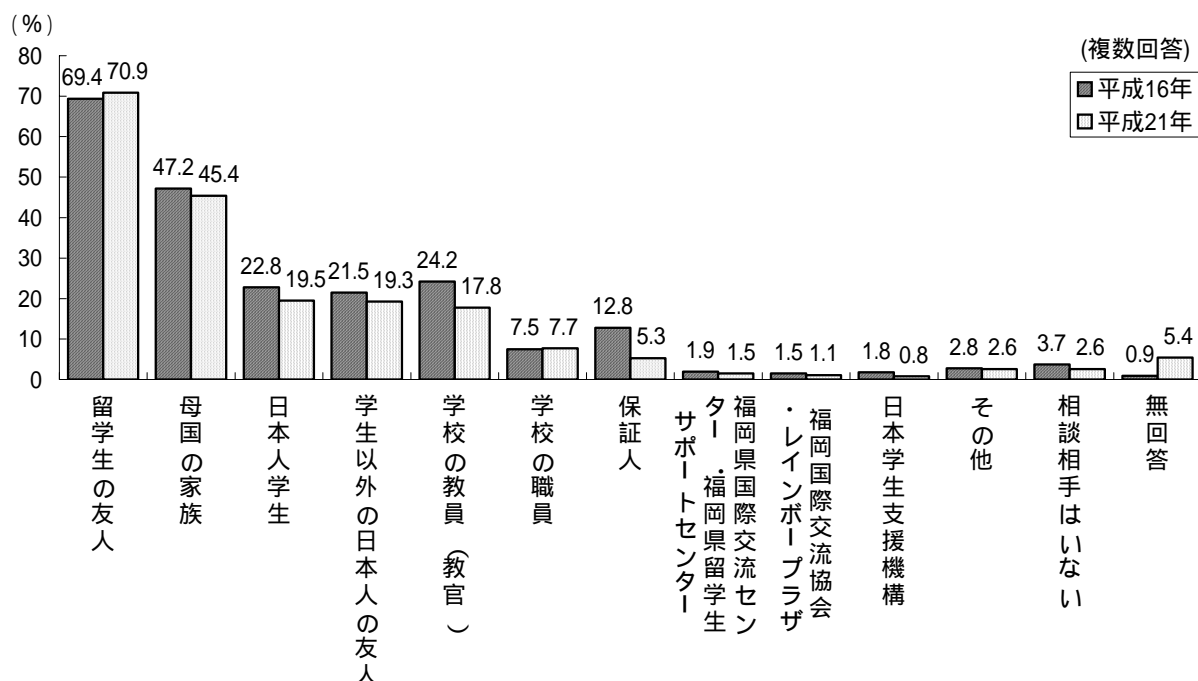
(3) 修学上の悩み (問29)

修学上の悩みとしては、「奨学金がもらえない」(30.2%)、「日本人学生とのコミュニケーションがうまくできない」(25.5%)、「今の勉強(研究)が帰国後にいかせるか不安である」(21.0%)、「進学するかどうかわ迷っている」(13.0%)、「先生とのコミュニケーションがうまくできない」(11.5%)などであった。「特に悩みはない」と答えた留学生も19.0%いた。



(4) 悩みの相談相手 (問30)

悩みの相談相手としては、「留学生の友人」(70.9%)が圧倒的に多く、次に「母国の家族」(45.4%)であり、これらは日本人以外の人々である。以降、数値はかなり下がるが、「日本人学生」(19.5%)、「学生以外の日本人の友人」(19.3%)、「学校の教員(教官)」(17.8%)、「学校の職員」(7.5%)、「保証人」(12.8%)、「福岡国際交流センター」(1.9%)、「福岡国際交流センター・福岡県留学生サポートセンター」(1.5%)、「福岡国際交流協会・レインポープラザ」(1.5%)、「日本学生支援機構」(1.8%)、「その他」(2.8%)、「相談相手はいない」(3.7%)、「無回答」(0.9%)など主に日本人が相談相手となっている。



(5) 日本語能力について(問31、32)

来日時の日本語能力について、「読む能力」「不十分」(49.9%)、「普通」(32.6%)、「十分」(11.9%)という結果で、「書く能力」については、「普通」(48.3%)が最も多く、「十分」(37.9%)、「不十分」(8.1%)と答えている。読む能力に比べると、書く能力の方が高いと本人は評価している。

「話す能力」は、「読む能力」と同じように、「不十分」(58.2%)が多く、「普通」(30.3%)、「十分」(5.9%)と答えている。

次に現在の日本語能力について、「読む能力」「不十分」(67.6%)が多く、「普通」(19.5%)、「十分」(7.2%)を大きく上回る。この数字だけから見ると、来日時よりも悪化している。

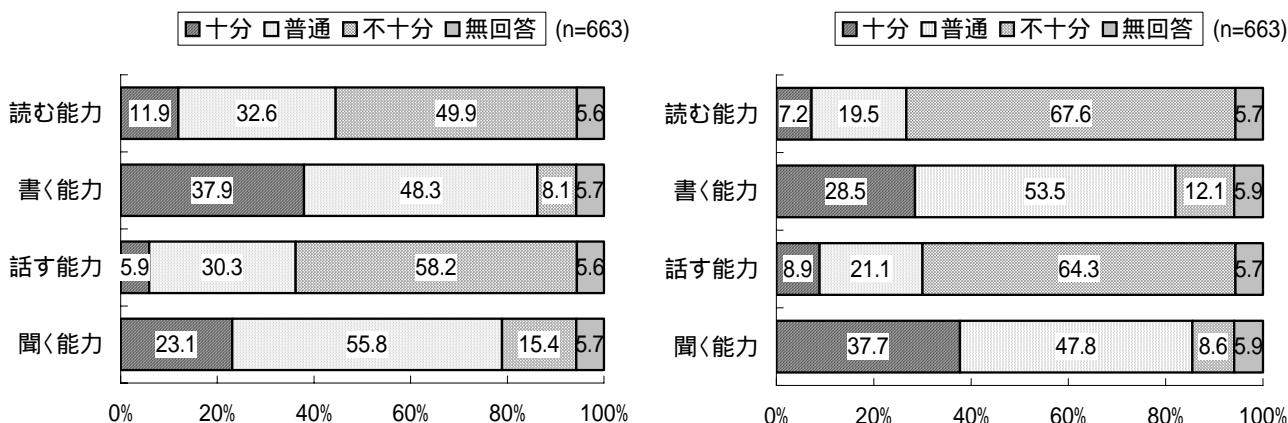
「書く能力」については、「普通」(53.5%)、「十分」(28.5%)、「不十分」(12.1%)と評価は来日時と似ている。

「話す能力」については、「不十分」(64.3%)、「普通」(21.1%)、「十分」(8.9%)となっている。

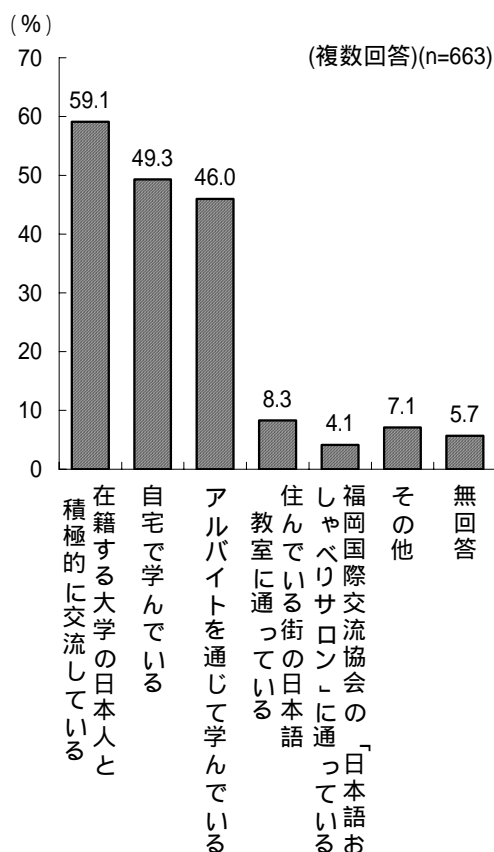
日本語能力を高めるための努力としては、「在籍する大学の日本人と積極的に交流している」(59.1%)が最も多く、「自宅で学んでいる」(49.3%)、「アルバイトを通じて学んでいる」(46.0%)も多い。続いて「住んでいる街の日本語教室に通っている」(8.3%)、「福岡国際交流協会の「日本語おしゃべりサロン」に通っている」(4.1%)という結果だった。

【来日時の日本語能力】

【現在の日本語能力】



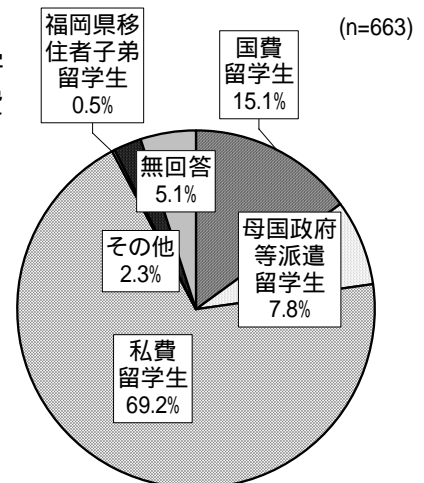
【日本語能力を高めるための努力】



経済的問題

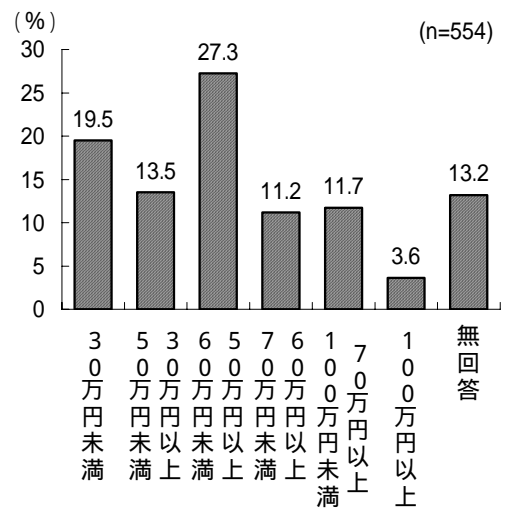
(1) 留学区分 (問33)

留学区分については、「日本政府奨学金留学生(以下、「国費留学生」と呼ぶ)」及び「母国政府等派遣留学生」の計が22.9%、「私費留学生」が69.2%、「福岡県移住者子弟留学生」(0.5%)、「その他」(2.3%)となっている。



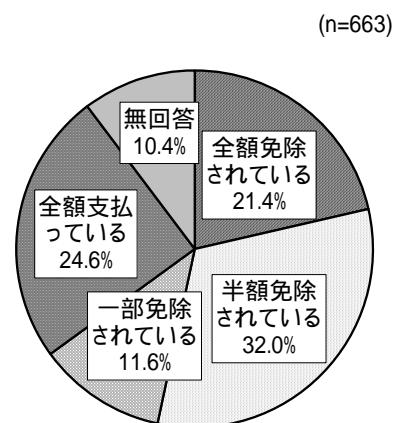
(2) 授業料 (問34)

年間授業料については、「全額免除されている」人を除くと、「50万円以上60万円未満」(27.3%)が最も多く、「30万円未満」(19.5%)、「30万円以上50万円未満」(13.5%)、「70万円以上100万円未満」(11.7%)、「60万円以上70万円未満」(11.2%)と続く。



(3) 授業料免除 (問35)

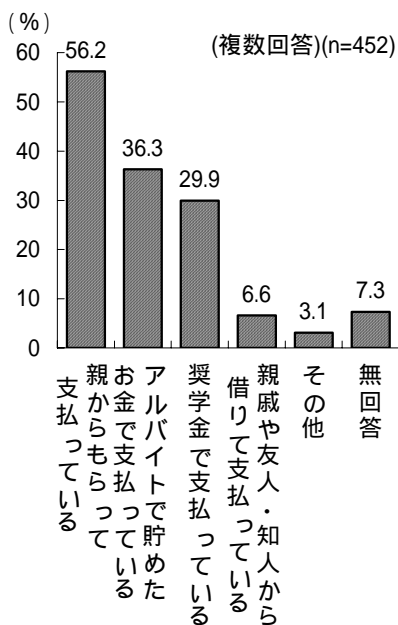
授業料免除については、「半額免除されている」(32.0%)、「全額免除されている」(21.4%)、「一部免除されている」(11.6%)となっており、「全額支払っている」という留学生も24.6%いる。



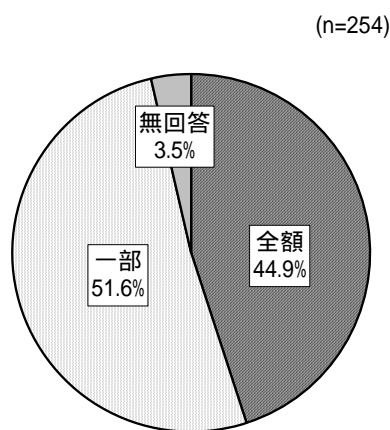
(4) 授業料の支払 (問36)

授業料の支払い方法については、「親からもらって支払っている」(56.2%)が最も多く、「アルバイトで貯めたお金で支払っている」(36.3%)、「奨学金で支払っている」(29.9%)、「親戚や友人・知人から借りて支払っている」(6.6%)の順である。また、授業料の支払い方法の中で、親からもらっている額についてであるが、「一部」(51.6%)、「全額」(44.9%)という結果であった。

【授業料の支払】



【親の支払額】



(5) 家計収支 (問37、38)

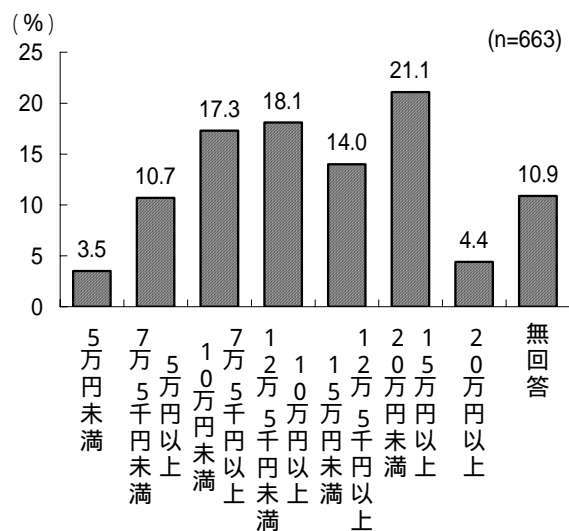
1ヶ月の収入は平均して123,440円である。収入の合計は、「15万円以上20万円未満」(21.1%)が最も多く、「10万円以上12万5千円未満」(18.1%)、「7万5千円以上10万円未満」(17.3%)と続く。「20万円以上」という留学生も4.4%いるが、「5万円未満」も3.5%いる。

1ヶ月の支出は平均して92,134円である。支出合計は、「5万円以上7万5千円未満」(28.7%)、「7万5千円以上10万円未満」(26.5%)で、全体の5割以上になる。「5万円未満」(8.1%)という留学生もいる。

【1ヶ月の平均収入】

(単位:円)		
収入項目	回答数	平均収入額
アルバイト	343	59,723
母国からの仕送り	270	64,004
奨学金	356	86,930
日本の知人の援助	5	33,600
同居している家族の収入	30	110,367
貯金より出した額	25	41,000
その他	10	65,200
計	591	123,440

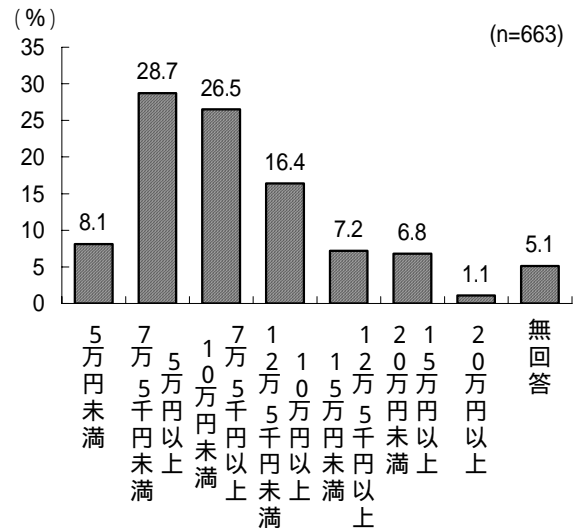
【収入】



【1ヶ月の平均支出】

(単位：円)		
支出項目	回答数	平均支出額
食費	619	30,312
家賃（共益費等含む）	614	31,104
交通費	520	7,607
参考書等学習費用	426	8,955
母国への送金	37	62,459
通信費	567	7,208
その他	329	17,071
計	629	92,134

【支出】



(6) 貸付制度 (問39)

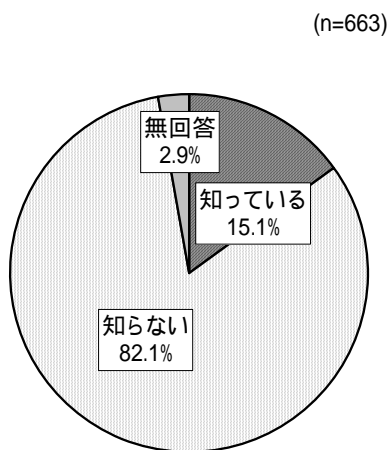
貸付制度とは、学費、住宅費、一時帰国費、生活費について無利子で貸し付けを行う制度である。福岡国際交流協会では、福岡都市圏の大学・短期大学に在籍する留学生に対して、20万円までの貸し付けを行っている。

これらの制度について認知されているかどうかであるが、「知っている」は15.1%に過ぎず、「知らない」(82.1%)が圧倒的に多い。

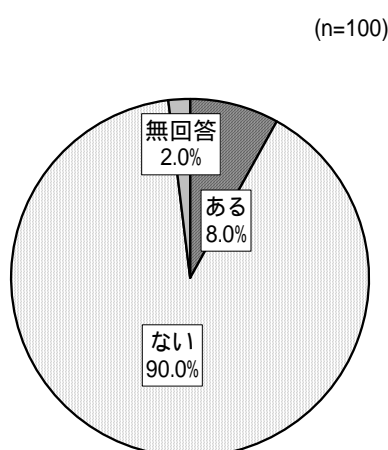
また、貸付制度について知っている留学生の中で、貸付制度の利用経験は、「ある」(8.0%)、「ない」(90.0%)となっている。

貸付制度を知っていて利用経験がない留学生に、申し込まなかった理由を尋ねたところ、「資金に余裕があったから」と「制度を利用したかったが、保証人が見つからなかったから」が共に36.7%であった。次が、「両親や友人から借り入れができたから」(24.4%)であった。

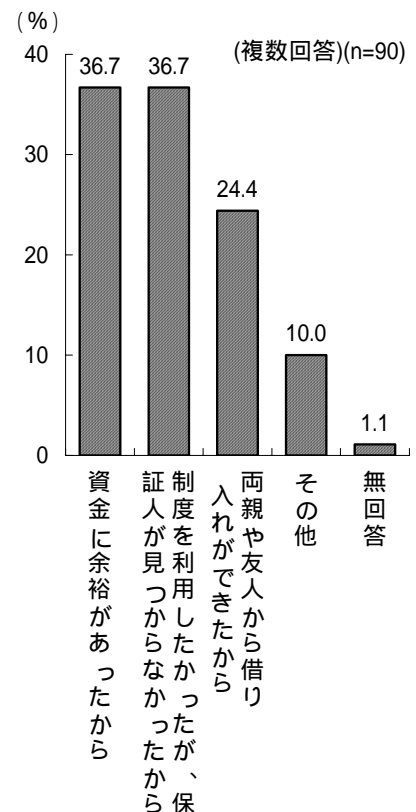
【貸付制度の認知度】



【貸付制度の利用経験】

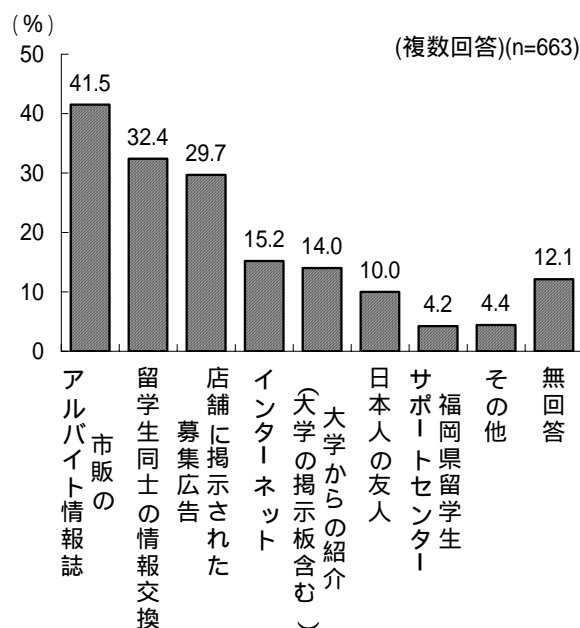


【申し込みをしなかった理由】



(7) アルバイト情報の入手 (問40)

アルバイト情報の入手については、「市販のアルバイト情報誌」(41.5%)が最も多く、次いで「留学生同士の情報交換」(32.4%)、「店舗に掲示された募集広告」(29.7%)、「インターネット」(15.2%)、「大学からの紹介(大学の掲示板含む)」(14.0%)、「日本人の友人」(10.0%)、「福岡県留学生サポートセンター」(4.2%)、「その他」(4.4%)、「無回答」(12.1%)の順となっている。



(8) アルバイトの種類と程度 (問41)

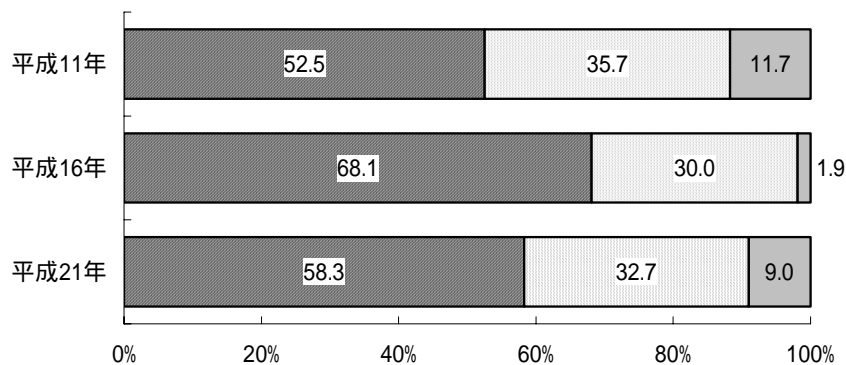
アルバイトをしている留学生は58.3%を占め、前回調査に比べて割合は減っている。

その頻度は、「週に2~3日」(42.7%)、「週に4~5日」(32.9%)、「週に1日」(12.2%)の順になっている。「ほとんど毎日している」という留学生は3.9%いる。

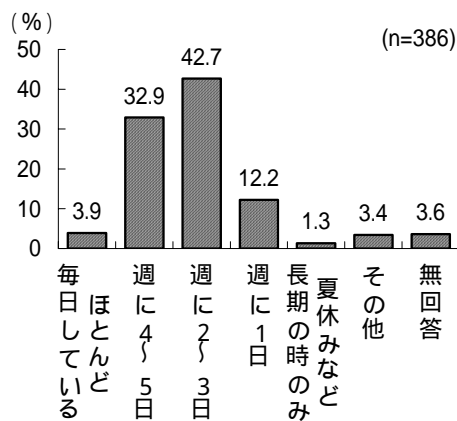
アルバイトの種類は、「軽労働」(40.9%)が最も多く、「講師・教師」(8.9%)が次に来る。

【アルバイトの状況】

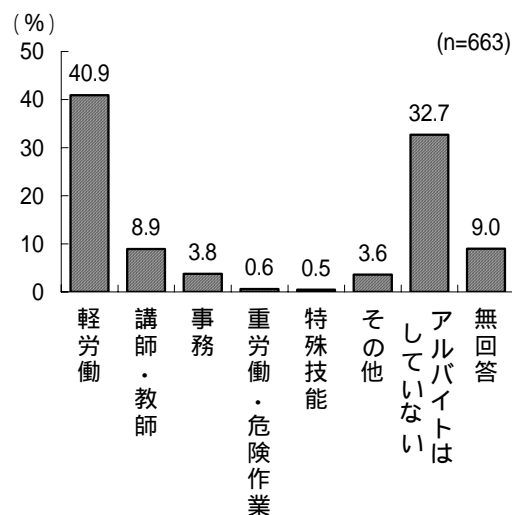
■している □していない □無回答



【アルバイトの程度】



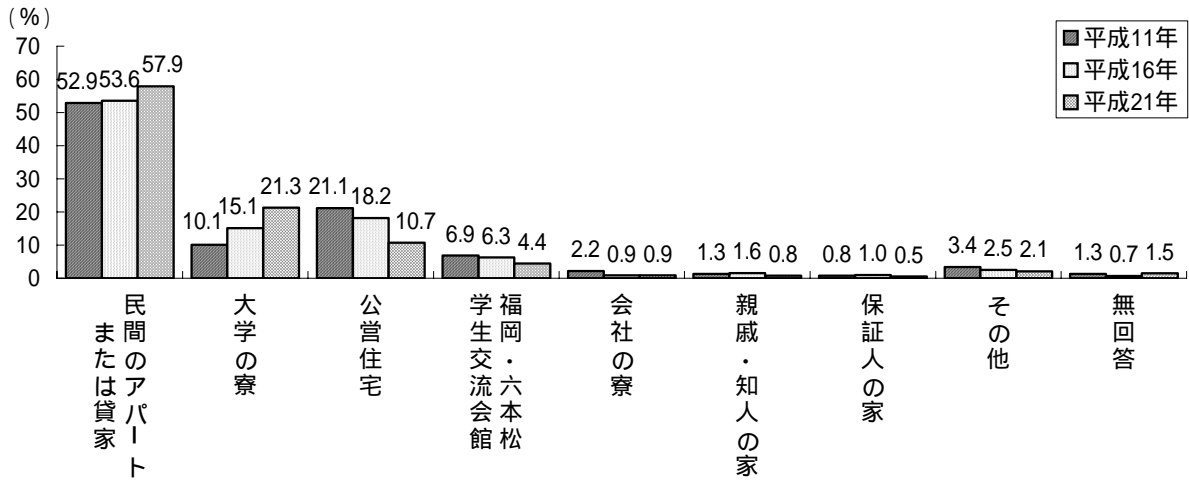
【アルバイトの種類】



住居について

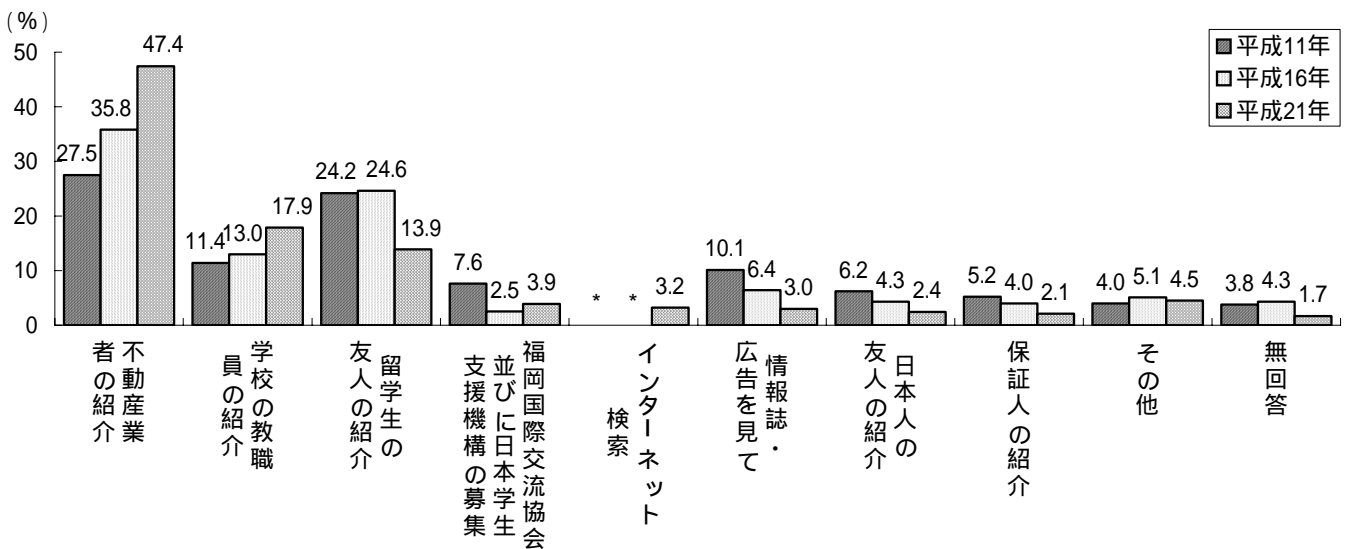
(1) 住居の種類 (問42)

住居の種類については、「民間のアパートまたは貸家」(57.9%)が過半数を超え、次いで「大学の寮」(21.3%)、「公営住宅」(10.7%)、「福岡・六本松学生交流会館」(4.4%)と続く。「会社の寮」(0.9%)、「親戚・知人の家」(0.8%)、「保証人の家」(0.5%)などはいずれも少ない。



(2) 住居の探し方 (問43)

住居を探す方法については、「不動産業者の紹介」(47.4%)が約半数を占め、次いで「学校の教職員の紹介」(17.9%)、「留学生の友人の紹介」(13.9%)と続く。

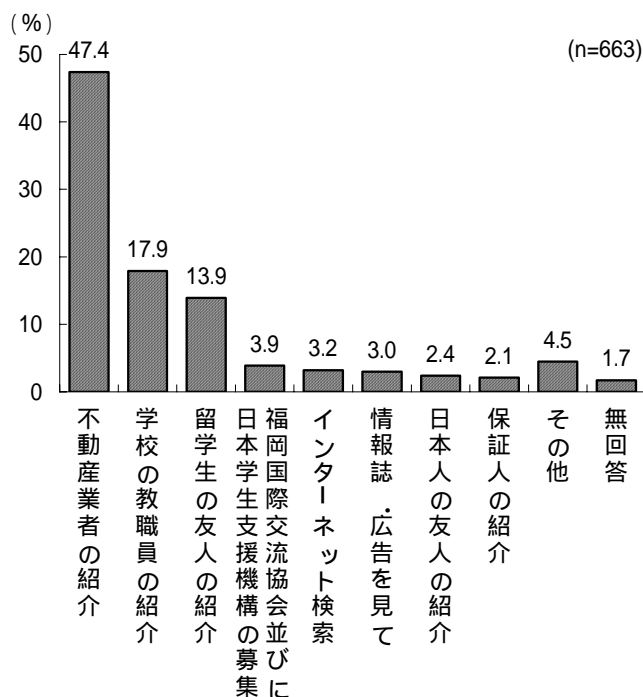


(3) 住居探しで困ったこと(問44)

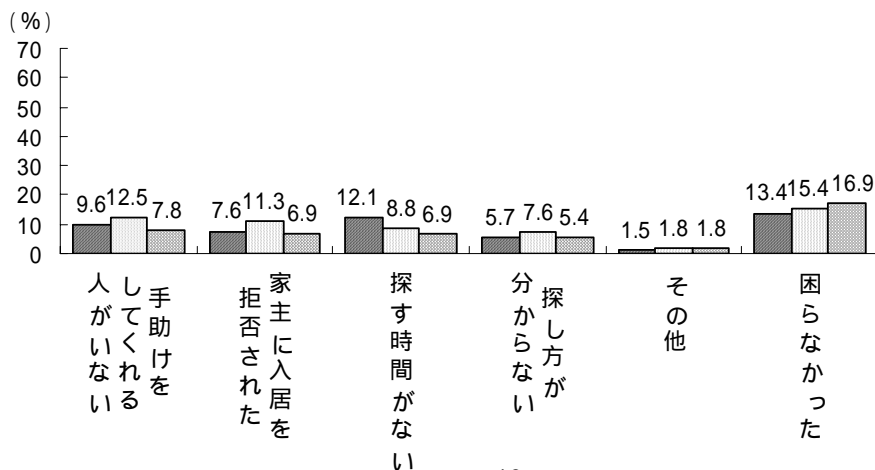
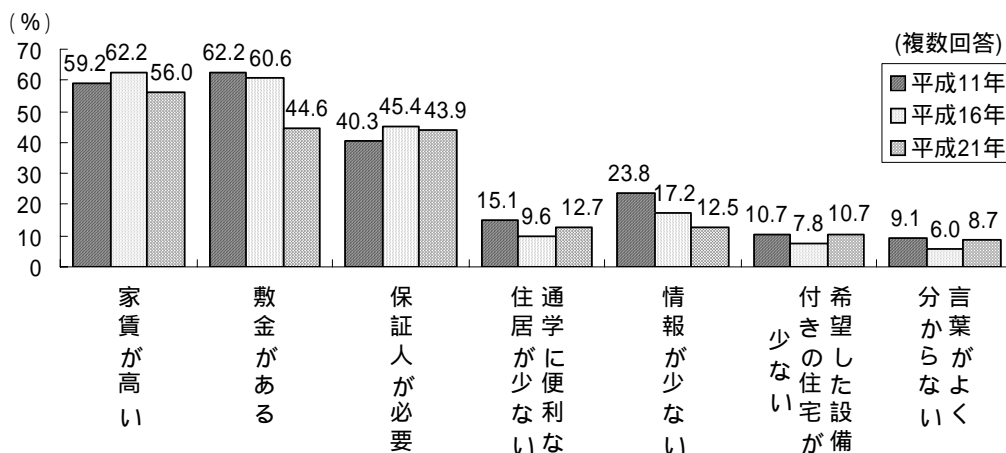
住居の探し方については、「不動産業者の紹介」(47.4%)が約半数を占め、次いで「学校の教職員の紹介」(17.9%)、「留学生の友人の紹介」(13.9%)と続く。

住居探しで困ったこととしては、「家賃が高い」(56.0%)、「敷金がある」(44.6%)、「保証人が必要」(43.9%)で、経済的なことを困ったこととしてあげている留学生が多い。一方、「困らなかった」と答えた留学生も16.9%いた。

【住居の探し方】



【住居探しで困ったこと】



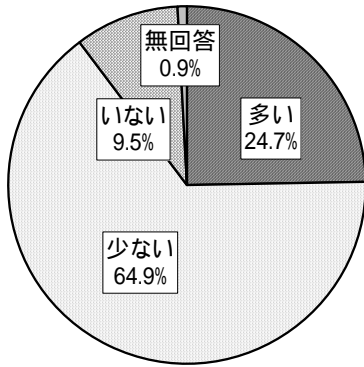
福岡地域における留学生の交遊と交流

(1) 留学生の友人関係 (問45)

「多い」が過半数を上回ったのは同じ国出身の友人だけで、日本人の友人については「少ない」が64.9%を占め、その他の国の友人については「少ない」が59.3%となっている。

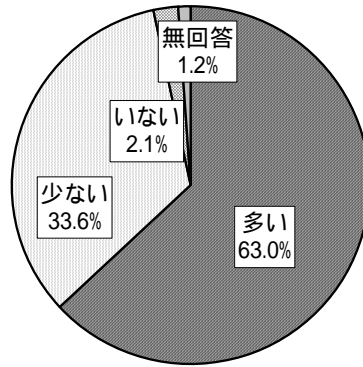
【日本人の友人】

(n=663)



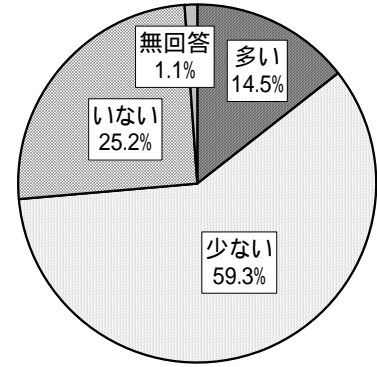
【同じ国出身の友人】

(n=663)



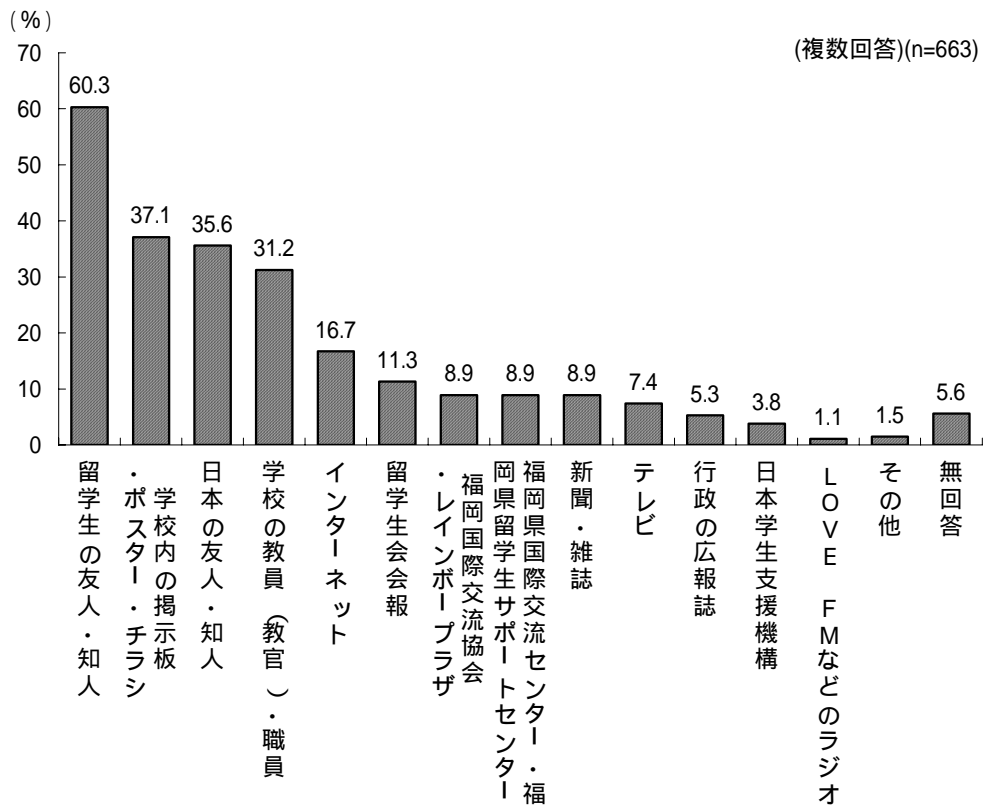
【その他の国の友人】

(n=663)



(2) 交流行事の情報源 (問47)

交流行事の情報源については、「留学生の友人・知人」(60.3%)が最も多く、「学校内の掲示板・ポスター・チラシ」(37.1%)、「日本の友人・知人」(35.6%)、「学校の教員(教官)・職員」(31.2%)の順になっている。「インターネット」は16.7%と意外と低い。

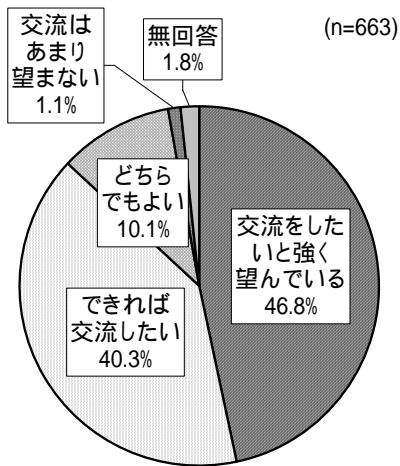


(3) 交流行事と交流への期待 (問48、49)

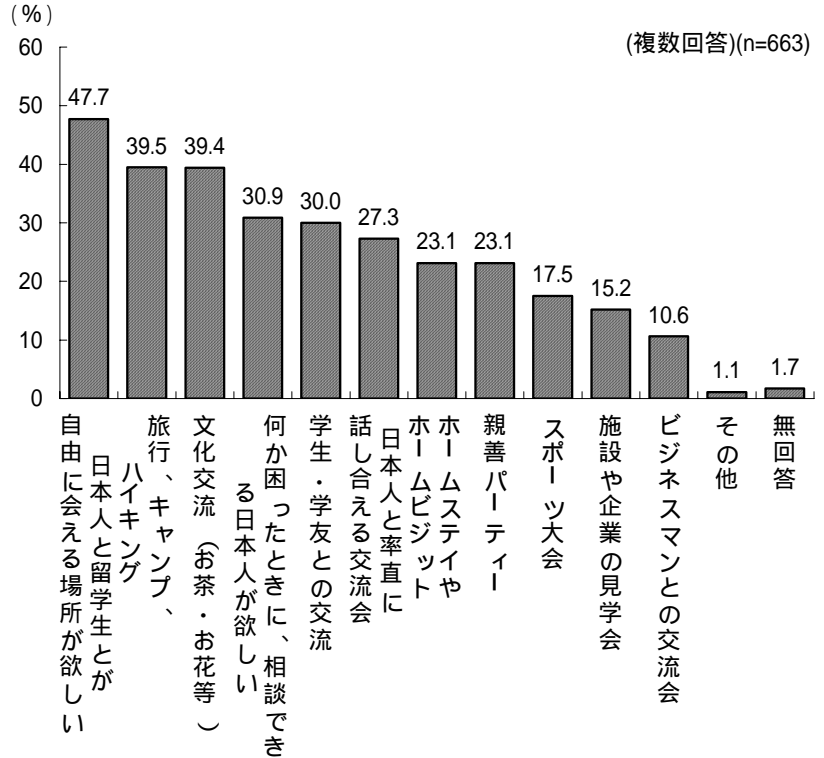
日本人との交流の希望については、「交流をしたいと強く望んでいる」(46.8%)が最も多く、「できれば交流したい」(40.3%)を加えると、9割近くの留学生在が日本人との交流を望んでいるのがわかる。「交流はあまり望まない」は1.1%に過ぎない。

また、交流についての希望は、「日本人と留学生とが自由に会える場所が欲しい」(47.7%)、「旅行、キャンプ、ハイキング」(39.5%)、「文化交流(お茶・お花等)」(39.4%)、「何か困ったときに、相談できる日本人が欲しい」(30.9%)、「学生・学友との交流」(30.0%)、「日本人と率直に話し合える交流会」(27.3%)、「ホームステイやホームビジット」(23.1%)、「親善パーティー」(23.1%)となっている。

【日本人との交流希望】

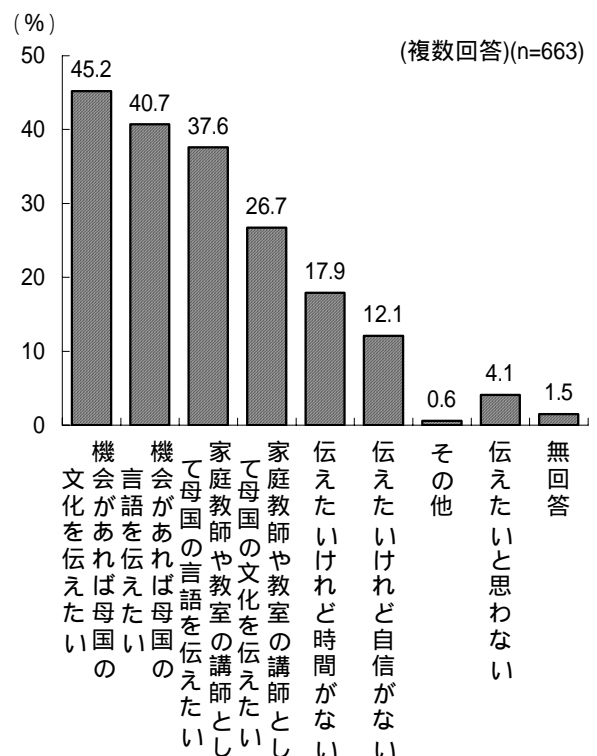


【参加したい交流行事】



(4) 母国の言葉や文化の教示 (問50)

母国の言葉や文化を伝えたいか、ということについては、「機会があれば母国の文化を伝えたい」(45.2%)、「機会があれば母国の言語を伝えたい」(40.7%)、「家庭教師や教室の講師として母国の言語を伝えたい」(37.6%)と、半数近くの方は自分の母国について、日本人に伝えたいと思っている。「伝えたいと思わない」はわずか4.1%であった。



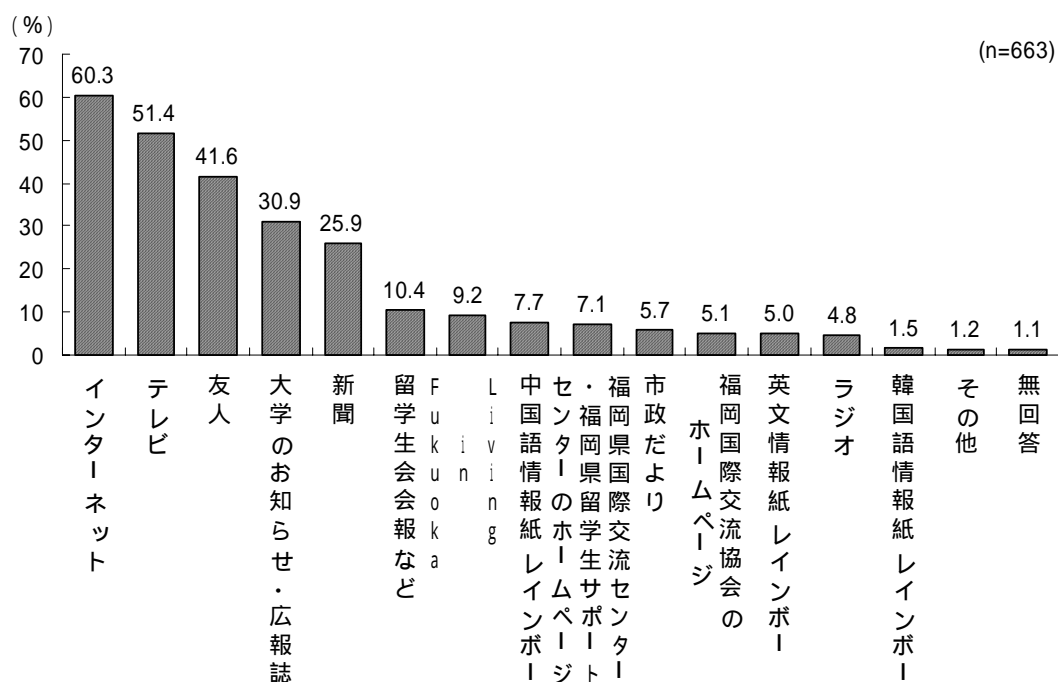
留学生への情報提供

(1) 生活情報・行政情報の情報源(問5 1、5 2)

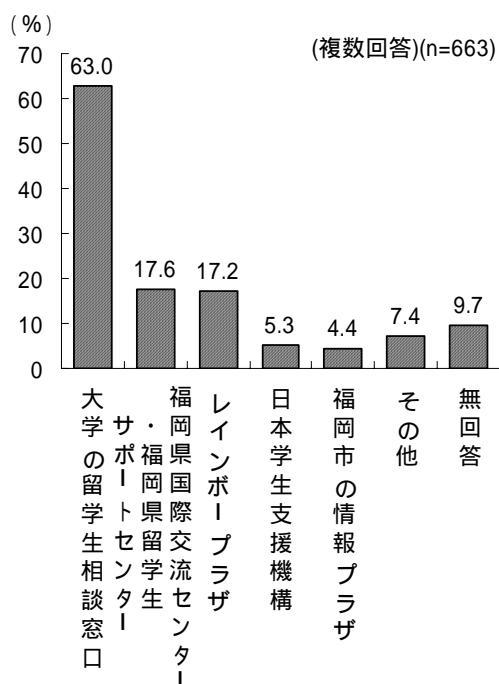
生活情報・行政情報の入手経路としては、「インターネット」(60.3%)、「テレビ」(51.4%)、「友人」(41.6%)、「大学のお知らせ・広報誌」(30.9%)、「新聞」(25.9%)となっている。

生活情報や行政情報入手のために行った場所としては、「大学の留学生相談窓口」(63.0%)が多く、「福岡県国際交流センター・福岡県留学生サポートセンター」(17.6%)と「レインボープラザ」(17.2%)はほぼ同じ数値となっている。

【生活情報・行政情報の入手経路】



【情報の入手場所】



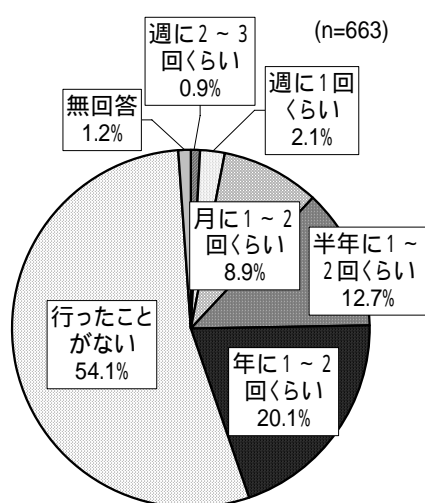
(2) レインボープラザの利用率とサービスの充実(問53、54、55)

レインボープラザに行く回数については、「行ったことがない」(54.1%)が最も多く、「年に1~2回くらい」(20.1%)、「半年に1~2回くらい」(12.7%)、「月に1~2回くらい」(8.9%)、「週に1回くらい」(2.1%)、「週に2~3回くらい」(0.9%)と、行ったことがない学生が多く、行ったことがある学生でも、年に1~2回程度の利用であることがわかった。

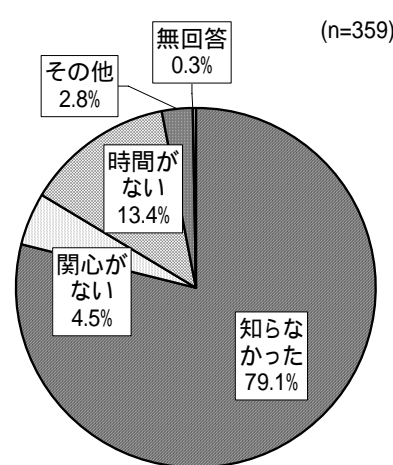
次に、レインボープラザに行ったことがない理由については、「知らなかった」(79.1%)が圧倒的に多く、「時間がない」(13.4%)、「関心がない」(4.5%)と続き、行く目的として、「国際交流情報の入手」(23.5%)、「掲示板の利用(生活用品、語学)」(17.9%)、「生活関連情報の入手」(17.3%)、「生活用品のリサイクル情報」(12.8%)、「本を読む・借りる」(11.6%)と続く。

更にレインボープラザで充実して欲しいものとしては、「情報誌」(17.9%)、「図書」(16.3%)、「展示・イベント」(15.1%)、「掲示板」(14.8%)、「雑誌」(12.4%)、「インターネット」(12.4%)、「窓口サービス」(11.5%)と続く。

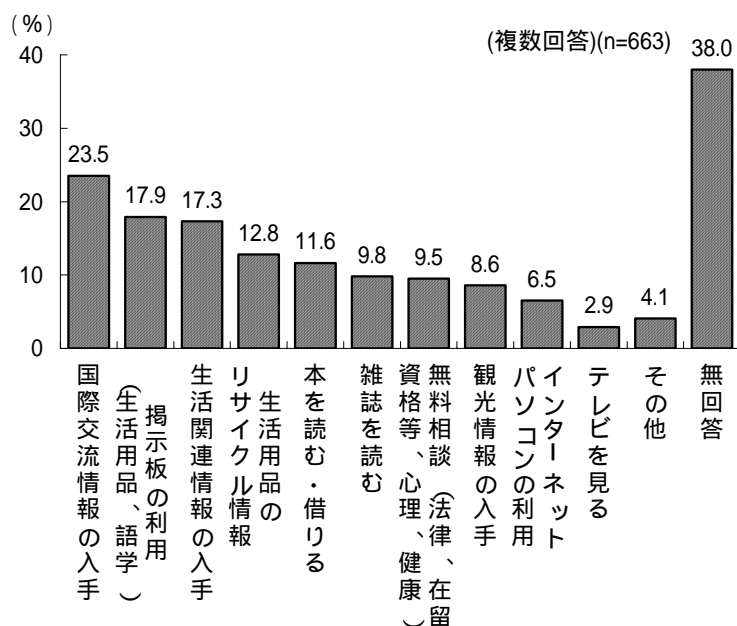
【レインボープラザに行く回数】



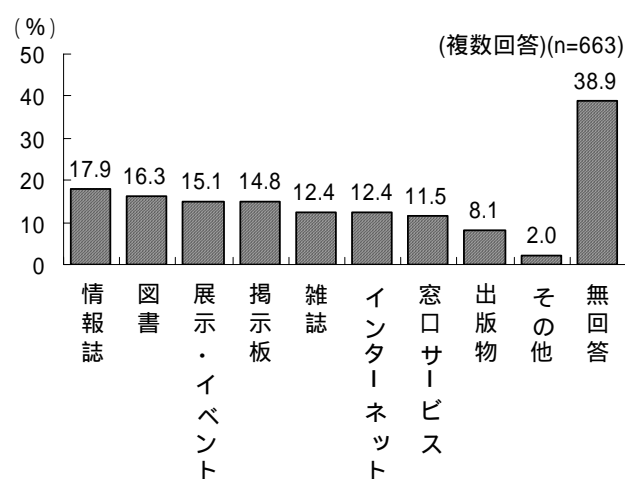
【レインボープラザに行ったことがない理由】



【レインボープラザに行く目的】

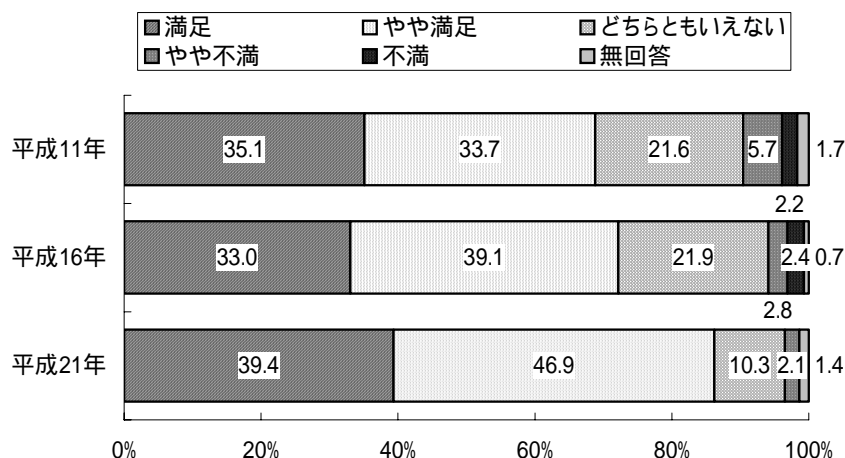


【レインボープラザで充実して欲しいもの】



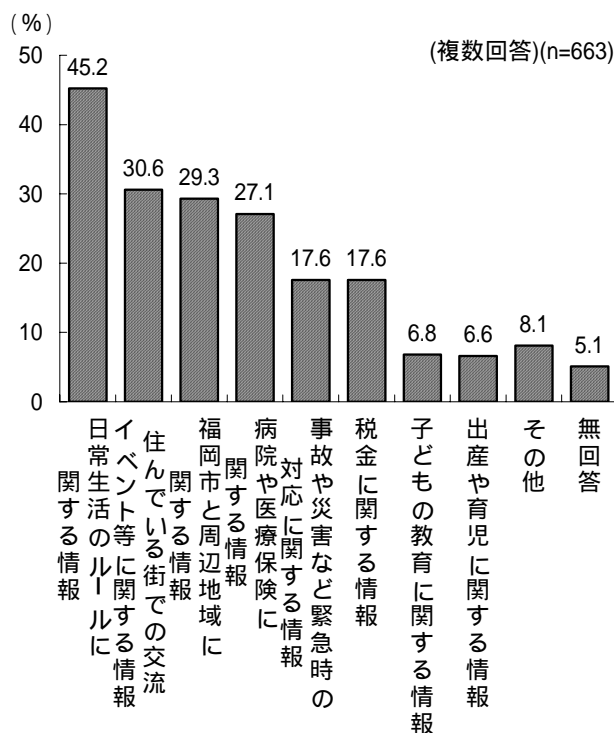
(3) 福岡での生活満足度 (問56)

福岡での生活の満足度については、「満足」(39.4%)、「やや満足」(46.9%)、「どちらともいえない」(10.3%)、「やや不満」(2.1%)、「不満」(なし) という結果だった。「満足」と「やや満足」を合わせると、86.3%の留学生が福岡での生活に(程度の差はあるにしても)満足している、と回答しており、前回調査の72.1%を大きく上回っている。



(4) 特に希望する情報 (問57)

特に希望する情報としては、「日常生活のルールに関する情報」(45.2%)、「住んでいる街での交流イベント等に関する情報」(30.6%)、「福岡市と周辺地域に関する情報」(29.3%)、「病院や医療保険に関する情報」(27.1%)、「事故や災害など緊急時の対応に関する情報」(17.6%)、「税金に関する情報」(17.6%)、「子どもの教育に関する情報」(6.8%)、「出産や育児に関する情報」(6.6%)の順になっている。



まとめにあたって

1. 回答者の属性について 普通の若者としての生活の確保を

今回の調査の回答者の多くは、20代の若者だった(問3)。出身国や地域及び文化が違うとは言え、彼らも日本の若者と同じように、学び、遊び、恋をする。

留学生30万人計画も始まり、10年後には現在の3倍の留学生が日本で学ぶことになる。そして多くの留学生は、5年程度の留学生生活を送り、そのまま日本に残り市民として暮らしていく人も増えるだろう。彼らはすでに特別な「お客様」ではなく、我々と同じ住民なのである。

しかし、生活の実情を見ると、日本での暮らしはそれほど楽なものではない。十分な奨学金や仕送りが無い留学生は、他の学生がサークル活動で楽しんでいる時間に、アルバイトに励み、疲れた頭でまた次の日には、「外国語」である日本語を聞き続けなければならない。

「彼らは好き好んで日本に来たのだ。厳しいのは当たり前だ。」という話も聞く。確かに、ある意味彼らは好き好んで日本に来たわけだが、実際は日本政府が政策として留学生を呼び、各大学が必死で学生を集めて大学の存続を図っているという実情もある。

もう少し、普通の若者として、サークルを楽しんだり、友達とふざけたり、時には授業をさぼって遊びに行く、ということの良いのではないか。妙に「国を背負って」と気張ってみたり、「日本人の税金を使っている」と日本人側が目くじらを立てる必要はない。日本人も留学生も、いつのまにか自然に混じって、同じように生活している、という日本あるいは福岡を作っていけないだろうか。

もちろん、後述するように、留学生は単なる個人としてではなく、国際間の政治的・経済的な交流関係の影響を強く受ける存在でもある。その2つの側面を併せ持ちながら、彼らは日常を生きているのである。

2. 日本留学に至る個人的背景と将来計画 留学前と留学後の潜在的な意向

多くの留学生は、学位取得や研究を進めるために、日本に来る(問12)。そしてなぜ福岡を選んだのかと言えば、母国にいる友人が勧めたり、あるいは知人が福岡にいたり、また福岡が生活しやすい、というイメージがあるからである(問13)。それは、多くの元留学生たちが、「福岡は良いところだ」と勧めた結果だろうと考えられる。

福岡県ないし福岡都市圏には全国的にみても留学生がたくさん暮らしている。それは、これまでの、大学や行政機関、市民の留学生に対する配慮や支援の結果であると考えられる。

次に留学生が描く将来計画はどのようなものだろうか。留学生の多くは日本に残り、日本で就職することを求めている(問15)。

その希望就職先は、福岡の地元企業であることがもっとも多い(問22)。生活がしやすく、慣れ親しんだ福岡で職を得て、福岡市民としてその後も住み続けたいと思うのは当然のことであろう。

学生にとって就職活動は「企業とお見合い」と言われる。自分に合った企業等との出会いを求めて、多くの情報を集めてチャンスをつかまなければいけない。これは留学生に限ったことではない。留学生の多くが就職情報の充実を一番に望んでいること(問16)は、留学生にとっての採用の「狭き門」がまだまだ現実的に存在することを意味すると考えられる。

今日、留学生をめぐる政策は国を挙げての国際高度人材獲得・育成政策へと変化してきている。しかしながら日本では留学生の社会的な受入体制が未だ整っていない現実がある。日本に残りたい、福岡で学び、職を得たいと願う留学生に対し、大学や行政機関そして地域社会は今後どのような支援を行えば良いのだろうか。また、優秀な人材であれば出身国や地域を問わず獲得したいという企業は、国の思惑どおりに増えていくのだろうか。

今後一人でも多くの留学生が福岡ファンとなり地元企業に就職できれば、将来的にまた多くの留学生を福岡に呼ぶことに繋がるだろう。そして数多くの留学生が福岡と世界を結ぶ企業人として活躍する時が来れば、それは福岡の発展を支えひいては日本の平和を支えていくことになるだろう。

3. 日常生活の諸問題 もう少し生活に余裕を

生活上の悩みの最大のものは「物価が高い」であり(問27) 過去の調査でも同じ結果だった。修学上の悩みとしても、「奨学金がもらえない」がトップだった(問29)。私費留学生の多くは、アルバイトしながら支出を切り詰めている(問38)。もう少し、留学生の生活に余裕を与えることはできないのか。具体的には、奨学金の支給と授業料免除である。

また、悩みの相談相手は、日本人よりも留学生の友人が圧倒的に多かった(問30)。日本人と交流したくても、実際には「日本語」が問題となる。日本語能力が不足していると多くの留学生は感じている(問31)。であるならば、もっと日本語教育に力を入れる必要があるのではないだろうか。確かに大学では「英語コース」の増設が行われ、英語だけで卒業できる留学生も増えてきた。しかし、日常生活や交友のためには、もっと普通に日本語を話せるようになる必要がある。特に、「その他アジア(中国・韓国・台湾以外)」「その他の国(アジア以外)」の学生に対する日本語教育には力を入れる必要がある。

経済的にも最低限が保障され、日本語も十分に使える、というような余裕がある生活の基盤の上で、より勉学にも集中していけるのではないだろうか。

4. 経済的問題 留学生間の経済格差の問題

中国の経済的發展がめざましい。その影響か、留学生の悩みの中の「物価が高い」は過去に比べると割合が下がりつつある。しかし、やはり留学生の収入を見ると、私費留学生の収入・支出の低さが目に付く(問37、38)。私費留学生の月5万円とか7万円での生活、というのはどういうものなのか。以前から指摘されてきたことだが、同じ留学生といっても、国費・私費ではあまりにも違う。またアルバイトを探そうとしても、「外国人」であるというだけで電話した段階で断られる、という話も相変わらず多い。留学生を受け入れる地域社会への働きかけも必要だろう。

私費留学生への支援はこれからも大きな課題の一つである。

5. 住居について 保証人問題の解決を

アパートの保証人をどう探すかということが以前からずっと問題となっている。留学生に対する機関保証の試みは以前からされてきたし、大学が保証人を引き受ける、という制度もある。それにも関わらず、多くの留学生はやはり「保証人が必要」(問44)という問題に直面している。保証人制度自体を知らないのか、あるいはまだ足りないのか、今後も努力を続けて行く必要がある。

6. 福岡地域における留学生の交遊と交流 日本人との交流の促進

留学生の多くは、同国の友達が多く、日本人の友達が少ない(問45)。せっかく日本にいるのだから、日本人と仲良くなるのが望ましいし、そうすれば日本語も上達するし文化の理解も格段に進む。留学生の多くは日本人との交流を強く望んでいる(問48)。そうであるならば、交流の機会をさらに増やす必要がある。

留学生は母国の言葉や文化を伝えたいと考えているので(問50)、彼らをリソースとして活用していくことは、留学生・日本人双方にとってメリットがある。

7. 留学生への情報提供 福岡での生活をより良いものにするために

留学生は、基本的に自分の大学周辺で生活をしている。だから、福岡市中心街にある「レインボープラザ」にも行ったことがないという学生が多い(問53)。留学生が福岡に到着して間もないうちに、市内ツアーを行ってはどうか。その中に、福岡市や福岡県の交流関係施設を入れて、早い時期に情報へのアクセス場所を教えた方が良い。また、「留学生30万人計画」により、今後日本語が話せない留学生が増えてくることが予想されている。情報提供については、少なくとも英語(できれば中国語その他)で書かれたパンフレットやホームページが必要である。日本語があまりよくわからなくても、福岡で快適に暮らしていけるような環境を提供すべきであろう。

留学生の多くは福岡での生活に満足している(問56)。自分が今住んでいる街が好きだ、満足している、ということは留学生の心理的安定にも大きく影響するし、また将来的には多くの学生に福岡での留学を勧めてくれるだろう。

九州大学留学生センター 高松 里

(財)福岡国際交流協会
福岡市中央区天神 1-10-1
TEL 092 (733) 5630